

《令和3年度阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業》
介護老人保健施設・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション
連絡会

開催日：令和3年11月15日（月）

時 間：10:00～11:30

場 所：阿南市役所 302 会議室

目 的：同業種間での共通認識・資質向上に繋ぐ顔と顔の見える関係づくりの構築。
在宅医療・介護に関わる業種ごとに開催し、同業種間の意見交換を通じた資源
の把握、課題の抽出等を行う。

参加者：11名

介護老人保健施設 正静絹	：事務長 甘利 克征
介護老人保健施設 阿南名月苑	：主任 小島 淳
岩城クリニック通所リハビリテーション	：主任 中村 和貴
原田病院 リハビリテーション科	：理学療法士 原 愛実
介護老人保健施設ロイヤルケアセンター	：作業療法士 鳥居 義和
介護老人保健施設ロイヤルケアセンター	：副主任 東山 和紀
地域共生推進課	：課長 日下 浩之
地域共生推進課	：主査 松崎 由美
地域共生推進課	：事務主任 織原 裕希
介護保険課	：主事 福島 康人
在宅医療・介護連携支援センター	：センター長 湯浅 祐司

(1)挨拶：阿南市地域共生推進課 日下浩之課長

(2)本会について事務局からの説明

同業種間での共通認識・資質向上に繋ぐ顔と顔の見える関係づくりの構築。
また、在宅医療・介護に関わる業種ごとに開催し、同業種間の意見交換を通じた資源の
把握、課題の抽出等を行うことが目的。

(3)自己紹介

(4)意見交換

◆新型コロナウイルス感染症に伴う事業所の取り組み

○面会について

・令和3年11月1日より再開している事業所が殆どであり、現在、面会再
開を検討中の事業所もある。

- ・面会可能施設は1階での面会室等で面会。
また、県外の面会者はワクチン接種や陰性証明があれば面会可能。
 - ・事業所の職員は原則県外へは行かないようにしており、部署間の移動も極力避けている。
 - ・1階の面会室等でリモート面会を活用している。
 - ・年齢制限による面会を設けている。(30歳以上など)
- ⇒面会検討中施設は、厚生労働省よりも面会制限の解禁を言われているので、事業所での対策・対応をしっかりと準備を行い、面会再開に繋げる。

○利用者の対応について

- ・入所者、利用者は怒りっぽくなっている現状がある。
 - ・ADLの低下というよりは、高齢化による重度化が進んでおりケアの対応が大変となっている。
 - ・11月1日よりフロア毎のリハビリを解禁して集団でのリハビリを実施している。
 - ・県外の家族と接触した利用者は原則、2週間の休みにしている。
 - ・ワクチン接種をしてから再開する利用者もおられた。
 - ・当日の利用キャンセル数が増加している。
- ⇒入所者・利用者の気持ちになってのケアに努める。また、外出行事等を再開している施設もあるので、各施設で検討をしていく。

◆令和3年度介護保険制度改正に伴う事業所の取り組み

○LIFEに伴うシステムの検討

全事業所、色々なシステムを活用しているが、ソフト変更を検討している。法人・施設種別によってメリット・デメリットがあるので、情報交換をしていく。また、IT化による職員の高齢化対応についても情報交換を行う。

○各種計画書の利用者等のサインについて

コロナ禍により電話等で説明の対応をしているが同意サインに苦労している事について、各事業所、郵送等で対応をしている。他にどのような対応があるのかに対しては、阿南市介護保険課の福島さんより基本は法令に遵守すること。コロナ禍において、各事業所の状態も変わることもあるので、個々に相談に応じるのでご連絡ください。

○訪問・通所リハビリテーションマネジメント加算について

ドクターの参加に危惧しているので、連携を強化して良い事例があれば共通認識を図り、事業所の検討材料にしていく。

○通所リハビリテーションにおける入浴介護加算について

事業所により入浴介助加算Ⅱを算定目指しているがどのように取り組めばよいかとの質問があり、参加施設は入浴介護加算Ⅱのみ算定、入浴介護加算Ⅰ・Ⅱの両方算定、入浴介護加算Ⅰのみとまちまちであった。

⇒全事業所とも入浴介助加算Ⅱを算定目指しているとのことで、入浴介助加算Ⅱを算定している事業所が取り組み等を紹介して頂けることとなり、事業所間で連絡を取り合い、連携を図ることとなった。

(5)組織運営について

阿南市内の介護老人保健施設・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション部会の立ち上げに賛同して頂き、令和3年度の部会長として介護老人保健施設阿南名月苑の小島淳氏が推薦により決定。

今後は、部会を積極的に活用してより良い関係の構築をして運営に反映させていく。

【総評】

名前は知っているが顔が分からない、悩みや不安があった職員が直接会ってコミュニケーションを図ることで連携ができ、入所者・利用者や地域住民の皆様が住み慣れた事業所で長く継続できるよう、専門性を高める良い連絡会となった。

医療と介護の連携で、この部会は特にドクターとの連携が重要視されるので、当センターや阿南市より研修案内や情報提供をし、活用して頂く。

連絡や情報交換はメール等を活用してスムーズな連携に繋げる体制で部会運営を行っていく提案をしたところ参加者よりの賛同を得られることができた。

今後も感染症対策等を徹底し、顔の見える関係づくりで、強固たる連携構築を目指す。

【連絡会風景】



報告者：センター長 湯浅 祐司